P04

コタンコロカムイの森づくりに向けて「２１世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画」の取組について

日高北部森林管理署　大久保　歩武
田口　和香菜

背景・目的

当署管内を流れる沙流川の流域には古くからアイヌ民族が先住し、多様な森の恵みを巧みかつ持続的に利用して暮らしを営んできました。こうしたアイヌ民族の伝統的な暮らし、生業の場、そして文化の伝承が重要な課題となっています。アイヌの人々が独自の文化を伝承していく上で大切な場である「森」の再生に向けた地域と国有林との協働と連携の取組を紹介します。

協定と基本理念

21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画 ―コタンコロカムイの森づくり推進のための協定書―

平取町では平成8年頃からイオル（アイヌの伝統的な生活空間）再生の取組が進められてきました。北海道森林管理局ではアイヌの人々の想いを受けた森づくりを進めるため、平成25年4月に平取アイヌ協会長、平取町長、北海道森林管理局長の三者で協定を締結しました。令和6年7月には協定が目標とする地域の将来像を共有するために「コタンコロカムイと共に見る21世紀・アイヌ文化伝承の森イメージボード」を披露しました。

※「コタンコロカムイ」はアイヌ語でシマフクロウを指し、村の守り神を意味する

【協定の主な基本理念】
- 地域と国有林との協働による森づくり
- 北海道古来の森の再生
- 文化伝承に必要な生物相の育成、回復

具体的な取組

○ アベツの森での活動

沙流川の支流であるアベツ川流域の国有林野では、平取町と協働・連携し、アイヌの人々が伝統的に利用している植物の保護・増殖を行うための様々な取組を行っています。

植生調査

動物侵入防止柵を設置し、その内外に1m×1mのプロットを設定して調査を行っています。今年度は4月から9月までの期間において、プロット内の植物種ごとに被度、群度、植生高を計測しました。また、植栽した樹木について樹高を計測し、生育状況を調査しました。

ノネズミ対策

ノネズミによる食害を防ぐため、オオコノハズクなどのフクロウ類が営巣できるよう巣箱を設置しました。

巣箱にオオコノハズクが営巣 ⇒ ノネズミが捕食され、食害の減少を期待

共用林野締結式
平取町内の国有林野面積の約17%、7,306haを設定

チセを葺くヨシを押さえるサクマ
（広葉樹のしばを使用）

仮設の狩り小屋
クチャチセ
（トドマツの枝を使用）

○ アイヌ共用林野の設定

令和6年7月に平取町との間でアイヌ共用林野を設定しました。共用林野とは、国有林野を国と地域住民が共に利用する制度です。アイヌ共用林野ではアイヌ文化振興に利用するための林産物を採取することができます。平取町との契約では、山菜、しば、トドマツの枝などを採取対象としています。

○ シマフクロウ生息環境の再生

シマフクロウの生息環境に不可欠な要素として、
① 餌となる魚類が豊富な川
② 営巣できる大径木のある森
が挙げられます。これらについて、環境省や専門家と連携して再生の取組を進めています。

① 魚類の遡上環境を改善するため、上下流の河川工作物を改良

【上流部の治山ダム】
当署が魚道を設置

＋

【下流部の頭首工】
平取町が木製の簡易魚道を設置

② 営巣環境の整備のため、巣箱を設置

シマフクロウは広葉樹の大径木にできる樹洞に営巣

↓

営巣に適した大径木は少ないため、当面の代替としてFRP製の巣箱を設置

将来へ向けた協働と連携の継続

令和5年度4月に、協定は締結10周年を迎えました。活動は多様化し年々充実しつつあります。北海道古来の森の再生に要する数百年の時からすれば10周年もまだまだ序章であり、今後も関係者と共に協定の理念や目標とする「コタンコロカムイの森」の姿を共有し、地域との絶え間ない協働と連携に努めてまいります。